

JAL闘争を支える京都の会News No.97

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

この解雇は、モ/言う労働者の排除、 組合の弱体化を狙った不当解雇！

2023年8月22日、大手筋商店街（京都市伏見区）でJAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「自立労連」、「合同繊維労組」、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」の皆さんなど、猛暑の中計14人にご参加いただきました。今回の宣伝行動にはJAL客乗争議団の神瀬麻里子さんが参加しました。

神瀬さんは以下のように訴えました。「私は77年JALに入社してから33年間、客室乗務員として働いてきたが、突然2010年の大晦日に解雇された。なぜ、この大手筋商店街で毎月宣伝をさせていただいているかというと、私たち165名を解雇した当時のJALの最高経営責任者・会長をされていたのが稲盛和夫氏だからである。稲盛和夫氏は京セラを大きくし育て、たくさん著書を残されて、去年お亡くなりになった。



その稲盛和夫氏が私たちを解雇し、その2カ月も経たないうちに、あの解雇は必要なかったと発言している。記者会見でも、そして東京地方裁判所の法廷でも稲盛和夫さんはその発言



を繰り返した。必要がなかったのであれば、なぜすぐに元に戻さなかったのか。それには理由があることがわかっていました。私たち165名はJALにとっては邪魔な存在であったのである。165名はJALに対して安全でないものには安全でないと言い、ダメなものにはダメと言い続けた労働組合に結集してがんばっていたからである。私たちがなぜ、労働組合に結集しているのか。それは38年前に起こった123便事故のような事故を繰り返さないため

である。安全を守るはずの航空会社が安全よりも利益を優先する、それこそが、あの123便の事故に至る原因である。公共交通としてお客様を目的地まで安全に届けるのが航空会社の

責務のはずである。

しかし、稲盛和夫氏はJALに來られてからは『利益なくして安全なし』このような言葉までJALの社内では広げられた。『飛行の途中に台風があるけれども。今日は台風を避けません。なぜならば燃料代が20万円余計にかかるからです、』このように発言する機長がでてくるJALになってしまった。今日もJALの社員は自分の関わる便は安全に目的地に届けようと必死で働いている。羽田から函館に向かう飛行機が函館空港の天候不良のため2回も着陸を試みた



が千歳空港にまわることになり、千歳空港に無事到着したと思ったら規定の燃料に足りない燃料しか残っていなかった、というような重大事件が起こっている。私たちJAL争議団はそんなJALを安全な航空会社に戻したいと思って、ここ大手筋商店街で宣伝をさせていただいている。皆さん、どうぞご理解とご協力のほどよろしく申し上げます。」と訴えました。

他にきょうとユニオンのKさん、きょうとユニオンのOさん、京都の会会員のIさんもアピールしました。

暑いせいか、人通りが普段より少ない感じでしたが、話しかけてくる方もあり、反応は悪くなかったと思います、

神瀬さん（JHU）の参加報告（JAL不当解雇撤回争議団の facebook から）

2023年8月22日

京都市伏見区の手筋商店街で「JAL 闘争を支える京都の会」主催の宣伝を行いました。猛暑にも関わらず、14名が参加くださいました。

3ヶ所を移動しながら、稲盛和夫氏の地元のみなさんにアピールすることができました。

「何があったん？」と気さくに話しかけてくださる通行人もおられて、大手筋のみなさんはいつも温かいです。

商店街のみなさまも、ご理解&ご協力ありがとうございます(๑•~•๑)

JALは早期解決を決断せよ！

次回 宣伝行動

9月12日（火）

（呼びかけ JAL闘争を支える京都の会）

午後2時～3時 伏見・大手筋商店街